

先生・お薦めの一冊

『スラムダンク勝利学』辻 秀一 著

(集英社インターナショナル)

保健体育科 山口 健人 先生

私が紹介するのは『スラムダンク勝利学』です。これは、大人気バスケットボール漫画で鹿児島出身の漫画家である井上雄彦さんの描いた『スラムダンク』を例に、スポーツ心理学を専門とする辻秀一さんが書いた本です。

『スラムダンク』は主人公の不良少年・桜木花道が高校からバスケットボールを始め成長していく姿と、所属している湘北高校で全国制覇を目標に挑戦していく様子を描いたバスケットボール漫画です。今回紹介する『スラムダンク勝利学』では、漫画の中で目標に向かって挑戦する主人公と所属チームの様子を挙げて、目標設定とそれに向かっての取り組みの仕方や考え方について、著者の辻さんが心理学の面から書いた作品です。勝利とは何か。ただバスケットボールの試合に勝つためだけではなく、『スラムダンク』の各場面を取り上げ、人世に置き換えて考えることができる「思考の仕方」を学べる本だと思います。

私が大学時代所属した部活動の中でも辻さんのメンタルトレーニングの一部を取り入れていたこともあり、中央生の皆さんが、それぞれの目標に向かって取り組むためのきっかけになればと思い、この本を紹介しました。部活動に勉強に一生懸命な中央高校生にお薦めの作品です。

『スラムダンク勝利学』の目次を見て図書委員Mは思った・・・

第1章・根性は正しく使う 第2章・自主的な目標設定をしよう！ 第5章・“すべき事”をする
第15章・あきらめは最大の敵である！ 第26章・“感謝すること”こそ勝利と一流への道
部活動生のみならず多くの中央生に読んでほしい一冊だと・・・。



シリーズ・明治維新150年企画：その2

ご近所出身の偉人たち 大久保 利通 (1830~1878)

日本を近代国家へと導いた大久保利通は、1830(天保元)年に高麗町に生まれ、幼年時代からは下加治屋町で育ちました。下加治屋町で西郷たちとともに郷中教育を受けた大久保は、幕末期には藩内の下級武士のリーダーとして藩論をまとめる一方、島津久光の信頼を得、藩政の改革にも手腕をふるいました。また、西郷とともに討幕に奔走し、1868(慶応4)年に明治維新を達成します。生麦事件、薩英戦争、薩長同盟・・・大政奉還、激動の時代の中で、大久保ら加治屋町で育った人々が、日本を近代国家へと導く原動力となっていたのです。

新政府樹立後大久保は、1869(明治2)年の「版籍奉還」、1871(明治4)年「廃藩置県」の実現に努め、大蔵卿(財政を管理する役職)時代には「地租改正」を行いました。また、殖産興業の一環として富岡製糸工場を設立させ、国内の近代産業の発展のために尽力しました。欧米諸国を視察した大久保は、帰国後1873(明治6)年に内務省を設立、内務卿(国内の政治を担当する役職)を兼任し、明治政府のトップとして日本の歩むべき道を示したのです。

欧米視察から帰国した大久保は、征韓論を唱える西郷に反対します。「今は明治政府の制度確立の時」と考えていた大久保は、情よりも理性を優先し、幼いときからの友・西郷の征韓論に反対したのです。この冷静な大久保の判断のおかげで、明治政府は道を誤ることなく近代国家への道を歩み始めました。甲突川のたもとに建つ大久保像。風にマントを翻し、その視線の先は何を見つめているのでしょうか。

参考文献『学校周辺の史跡めぐり』『加治屋町の偉人たち』鹿児島県立鹿児島中央高等学校 発行
『大久保利通』鹿児島県育英財団 発行



10月の貸出冊数 228冊

学年	1年					2年					3年													
	組	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8							
貸出数	4	7	1	5	8	4	1	1	2	10	4	0	29	21	44	11	0	7	3	12	28	5	13	8
合計	31冊					121冊					76冊													

*部活動や模試で忙しかった10月、なかなか本を読む時間がなかったようです。時間を見つけて本を楽しんでください。将来を見据えた読書にもチャレンジしてください！

新着図書

『ごほんの時間』井上都 著(新潮社)
井上ひさしの長女である都氏の食に関するエッセイです。文章もウツリ、書かれている食への物もウツリです。食に関するエッセイですが、私小説のようにも読めます。さすが井上ひさしの娘！という作品です。



『ワルーネス』伊与原新 著(文芸春秋)
東日本大震災をきっかけに地震研究所の広報職を辞した隼平は、ある計画に誘われます。次々に立ち上がる困難を乗り越え、そのプロジェクトは果たして成功するのか・・・?!
著者の伊与原氏は、大学院で地球惑星科学を専攻した理系出身の作家です。物語に登場するプロジェクトは存在するらしいです。

『憲法と君たち』佐藤 功 著(時事通信社)

～この本は、憲法のことを書いた本です。憲法のことなんかはずかしいし、おもしろくもないだろうなどと、はじめからきめてしまわないで、ひとつ読みだしてみてください～これは1955年、牧書房から発行された『憲法と君たち』の冒頭(はじめに)の一文です。今から60年ほど前に、憲法学者の佐藤功氏が子どもたちに向けて書いた憲法読本です。子ども向けの本のため、高校生の皆さんには少し物足りなく思えるかもしれませんが、表現方法も古くさく感じる書かもしれません。しかし、侮ってはいけません。やさしい言葉で、誰にでも理解できるように書かれました。らしい憲法読本です。法学部で学びたいと思っている人たちには参考になる本ではないでしょうか。法律に関する様々な新書を読む前に、日本国憲法の成り立ちを教えてくれる本書を読んでみてはいかがでしょうか。

『言語法廷』NHKテレビ『言語法廷』制作班編(金の星社)

もう一冊、法に関する物語を紹介いたします。白雪姫に毒リンゴを食べさせて殺そうとした王妃は、殺人未遂罪で有罪？オオカミを殺した3匹の子豚の末っ子豚は正当防衛？判決を決めるのあなたです！

*他にも、鹿兒島大学名誉教授の田口一夫先生の書かれた『海が運んだシヤカイモの歴史』(梓書院)や『森林がつくる日本

の林業』(藤森隆郎 著・築地書館)、ナイチンゲールの『看護覚え書』(現代社)、ちよと切な物語『いらいらソング』(吉野万理子 著・あすなろ書房)、『おいしい言葉の使い方』(B・M・FT 出版) など各分野の本が揃いました。

読んでみませんか！

編集後記



もうすぐ12月。季節が急に加速してきたように感じます。山口先生に紹介していただいた『スラムダンク勝利学』の中に「あきらめは最大の敵である！」とあります。何事も最後まで平常心で頑張ることが大切であることに改めて気がつかされる本です。スポーツだけでなく受験も同じかもしれません。明日から3年生の12月考査、明後日からは1・2年生の中

